

全国唯一！

Yori
Dori
Midori
とどろみどりねぎ

練馬の伝統野菜“練馬大根”を引っっこ抜け！

～「第9回 練馬大根引っっこ抜き競技大会」で500人が奮闘！

とどろみどりねぎ

12月6日(日)午前9時30分～午後1時

ところ

南田中一丁目6番の畑

6日、練馬区南田中の畑で、「第9回 練馬大根引っっこ抜き競技大会」が開催され、区内外から参加した約500人が、練馬を代表する伝統野菜「練馬大根」の引っっこ抜きに挑戦した。練馬区とJA東京あおばの共催。競技は、制限時間内に引き抜く本数を競う「選手権の部」と、時間内に抜いた大根(上限10本)の中で最も長い大根の長さを競う「グループ参加の部」の2部門で行われた。

細長く中太りの形状の練馬大根は、引き抜くのに青首大根の3～5倍の力が必要とされる。参加者たちは、なかなか抜けない練馬大根を相手に泥だらけになって悪戦苦闘していた。

大会会長の前川耀男(まえかわ あきお)練馬区長は、「この大会を大いに楽しみ、練馬大根を身近に感じただけ、大都市東京に生きた農業がある魅力を実感して欲しい。」と話した。

選手権の部で総合優勝したのは、制限時間2分以内に30本を抜いた30代の男性で、第7回大会に続き2回目の優勝。「グループ参加の部」では、親子5人のグループが、101センチの練馬大根を引き抜いて優勝した。

親戚9人で「選手権の部」と「グループ参加の部」に参加した女性は、予選(40秒)で7本を抜き健闘し、「親戚一同で第1回大会から参加していて、今では、この大会に出ないと年を越せないぐらい、我が家の一大イベントになっている。畑の多い練馬らしい大会なので、これからも続けてもらいたい」と笑顔で話してくれた。

大会を通じて、最も長い大根、重い大根、面白い形の大根、農園園主お気に入り的大根には各賞が贈られ、会場は大いに盛りあがっていた。

「最も重い大根賞」を受賞したのは、予選で3.8キロの大根を引き抜いた方。「2本目を抜こうとしたら、びくともしないで苦戦してしまった。結局、2本しか抜けなかったが、パス()しないで抜いてよかった」と笑顔で話した。(抜けない場合、1回はパスできるルール)

また、練馬大根を丹精込めて育てた園主は、「9月に種を撒いてから大切に育ててきた練馬大根を、たくさんの方が楽しんで収穫できることは、とても嬉しいことです。」と話した。

この日収穫した練馬大根4,800本のうち約4,000本は、7日・8日の両日、区立小中学校全99校の給食メニュー(練馬スパゲティやおでん等)として、子どもたちに提供される。



【選手権の部の様子】

【練馬大根引っっこ抜き競技大会について】

練馬といえば大根と言われるほど、練馬大根の名は全国的に知られているが、食生活の洋風化や、収穫が大変なこともあり、昭和30年代以降ほとんど生産されなくなった。区は、平成元年から農家の協力を得て育成事業に取り組んでいる。

平成19年に開始した「練馬大根引っっこ抜き競技大会」は、これまで悩みの種となっていた練馬大根の収穫を競技大会にすることで、参加者が楽しみながら行い、練馬大根の魅力を区内外に発信するとともに、収穫した練馬大根を学校給食として提供し、子どもたちの食育を推進することができる、まさに一石三鳥のイベントである。



【グループ参加の部の様子】

【問合せ】 練馬大根引っっこ抜き競技大会に関すること

産業経済部 都市農業課 農業振興係

電話03-5984-1403

学校給食に関すること

教育振興部 施設給食課 学校給食係

電話03-5984-5736